

土浦平和り会

ニュースNO・56 98年12月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

冬来たり9ば、春遠からじ

— 98年 新春のご挨拶に代えて 一代表理事 斎藤房

今年はず度の雪で明けた。雪は寒い冬の象徴、我が国の政治経済状況も、いわばこの雪かもしれない。新「ガイドライン」による日米安保大改悪、医療福祉の切り捨て、金融経済危機の深刻化など、これらはいずれも反国民的な自民党政治の悪しき産物にはかならない。また、そのクローン政党たる新進党の分裂騒動も、暗くて寒い冬の現象だ。

ここで、わたしは、イギリスの詩人シェリーの詩の一節を思い出す。

「おお、風よ、冬来たりなば、春遠からじ・・・」

沖縄では、暖かい「風」が吹き出し、寒い冬＝雪を溶かし始めている。「海上基地は認めない」とする「春」を呼ぶ「風」が・・・

名護市民は、すでに住民投票で海上基地にノーの判定を下し、今度は、市長選（2月1日告示、8日投票）で「ヘリ基地反対」の住民意志を確実にしようといき意気盛んである。

わたしたち「土浦平和の会」も、昨年来「沖縄」。「ガイドライン」を学び、実践的には平和憲法擁護・ガイドライン反対の意見広告などの運動に取り組んだ。

しかし、まだ沖縄の「風」に応えられる取り組みにはなっていない。ただ手をこまねいていたのでは「春」は訪れない。

学習もまだまだ必要だろうし、会員も増やさなくてはならない。具体的な課題については、理事会で検討するが、皆さまの更なるご協力を切望しながら、新年のご挨拶とする次第である。

百里初午まつりに行こう！

とき 2月11日（水・祝日）

ところ 百里基地平和公園

有事に29機の偵察機がどんな役割を果たすのだろうか？

「く」の字の誘導路をどうするのだろうか？

新ガイドライン反対・有事立法反対

新聞意見広告（11月24日付け毎日新聞）

こゝ土浦で 107名（団体賛同は取組みませんでした）

（全県で1千530名、団体102団体）

ご協力ありがとうございました。新聞の増し刷りを欲しい方は事務局まで連絡ください。

行事ごよみ

1月18日 県平和委理事会（新年会を兼ねて）

2月11日 百里初午祭り（平和公園11時半受付）

2月28～3月2日 ビキニデー（焼津）

3月15 第5回理事会（石岡）

違反だらけの新ガイドライン先取り

1996年5月、橋本総理の「周辺有事のさい我が国の取るべき対応を具体的に検討・研究するように」という指示に基づいて作業を開始した（防衛白書）。具体的な検討項目は下記の11項目。

- 1) 在外邦人などの保護（カンボジア紛争で先取り）
- 2) 大量避難民対策
- 3) 沿岸・重要施設の警備など
- 4) 対米協力措置（施設・区域面での協力や米軍に対する後方支援）

昨年11月中、日本各地で自衛隊と米軍の共同演習が繰り広げられ、一日本列島各地では米軍の超低空飛行訓練

が繰り広げられました。これが「新ガイドライン」の「施設・区域面での協力」実践です。米軍の訓練基地・訓練空域が地元住民の了解もナシに日本中に広げられました。

沖縄の海兵隊は沖縄でできなかった夜間砲撃演習や十数キロの長距離砲撃訓練を、地元との協定を無視しながら、本土で思う存分やりました。輸送には全日空機や民間バスを使い、費用は日本持ち。自衛隊機が民間空港を使い、高速道路も優先使用するという無法ぶり。

有事立法はさらに、領海・領空外の米軍への支援を盛り込み、公的機関・民間も強制動員しようとするのです。

その検討は終わっている。タイミングをはかっているというのです。最後の仕上げは国民の「基本的人権」を制限し、海外派兵を承認する憲法改悪への道です。